



市立三次中央病院 緩和ケアセンター主催
緩和ケア月例公開研修会⑪《通算第47回》

- 日時：令和2年2月17日（月）
18:30～19:30 講義・Q&A
- 会場：市立三次中央病院
健診センター2階 講堂
- 演題

人はどのようにして亡くなるのか — 臨終に先立つ身体の変化と心の変容 —

私たちが決して免れることのできない「生・老・病・死」、その最終段階ではどのようなことが起きるものなのでしょうか。1976年に我が国で初めて病院死亡数が在宅死亡数を上回り、その後40年あまりが経過するなかで、日常生活において死にゆく人を目の当たりにすることはめっきり少なくなりました。人生の「最期のとき」に向けて人の身体は目に見えて変化し、それにつれて心も著しく変容します。その過程をよく知ることは、終末期ケアに携わる医療関係者にとって必須といえるでしょう。

市立三次中央病院 緩和ケア内科医長
佐伯 俊成

<講師略歴>

佐伯 俊成(さえき としなり)：

昭和60年広島大学精神科入局。JA吉田総合病院、広島市民病院、中国労災病院、安佐市民病院、東京都立墨東病院などの精神科を経て、平成8年から広島大学病院精神科助手。平成10年同医局長。平成14年同講師。平成16年同総合診療科准教授。平成25年4月から現職。平成28年10月緩和ケアセンター長兼務。外来・入院緩和ケアに加えて近年は在宅緩和ケアにも注力する。うつ病ケアと自殺対策、認知症ケア、精神科救急にも通暁。厚生労働省精神保健指定医、日本心身医学会心身医療認定医、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学指導医・専門医、日本精神神経学会指導医・専門医。

